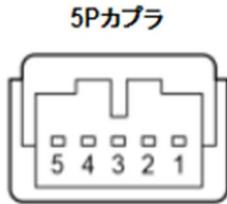
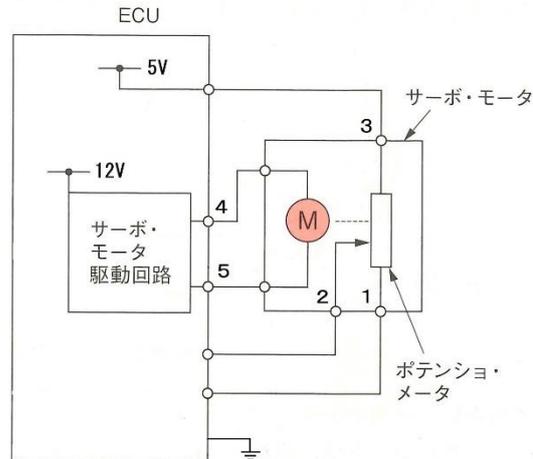


1. エアミックス・モータの端子配列及び回路図は次のとおりである。

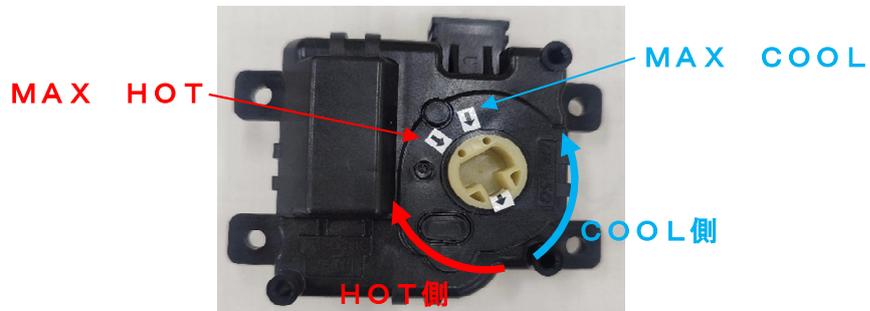
(端子配列)



(回路図)



2. エアミックス・モータの作動限界と作動方向は次のとおりである。



3. エアミックス・モータを各ポジションへ作動させるために、電圧を与える端子は次のとおりである。
※モータの作動が停止したら、12V電源を OFF にすること。

ポジション	端子番号				
	5	4	3	2	1
MAX COOL	⊖	⊕			
MAX HOT	⊕	⊖			

4. 5V電源を用いて電圧を与える端子は、次のとおりである。

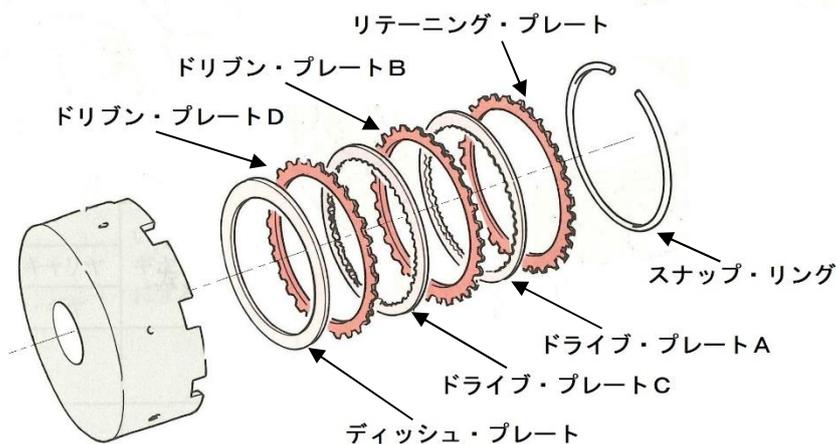
端子番号				
5	4	3	2	1
		⊕		⊖

○ 問1、問2の順序で試験を進めること。

問1 リテーニング・プレートとスナップ・リングのすき間の限度値 : 0.7mm

問2

- ① フォワード・クラッチの分解図は下記のとおりである。
- ② フォワード・クラッチを分解する場合は、プレート類の順番に注意すること。
(分解後に組み付ける必要はない)



- ③ ドライブ・プレートの厚さの限度値 : 1.50 mm
- ④ ドリブン・プレートの厚さの限度値 : 1.20 mm

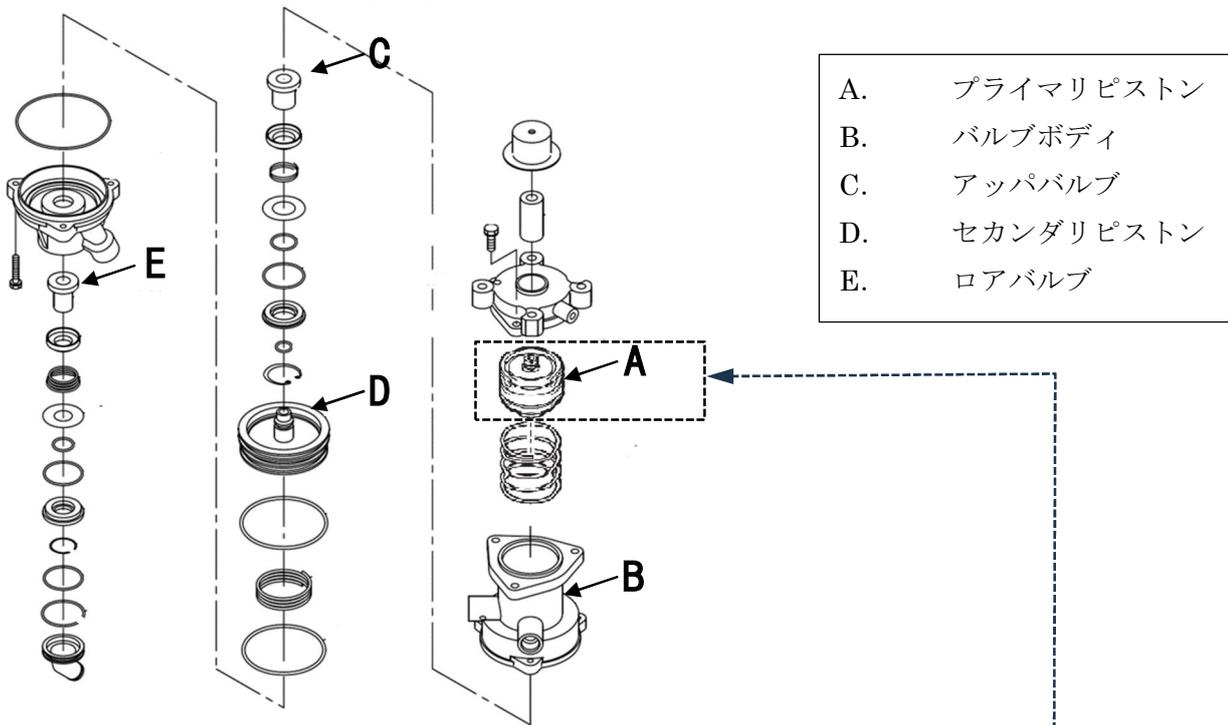
問3 以下の表は前進4段、後退1段のオートマチック・トランスミッションの変速時に作動する部品を示しています。

(表)

	リバース・クラッチ	ハイ・クラッチ	フォワード・クラッチ	オーバラン・クラッチ	バンド・ブレーキ機構	ロー・リバース・ブレーキ
後退	○					○
D 1 速			○	○		
D 2 速			○	○	○	
D 3 速		○	○	○		
D 4 速		○	○		○	

○印は作動していることを示す。

1. ブレーキバルブの分解図、部品名称は次の図のとおりである。



2. プライマリピストンは下図までの分解とし、内部の分解は行わない。



3. 分解時は各スプリングの飛び出しに十分注意し、保護メガネを身に付けること。

4. 分解後にブレーキバルブの組付は不要である。

5. 点検は目視にて行うものとする。